

2018年度

第2回 保育講演会

日時 2018年11月6日(火)
テーマ 絵本が育む愛の力 ～親子の絆を深めるために
講師 絵本作家 葉祥明先生

去る11月6日(火)、絵本作家の葉祥明先生の講演会が5年ぶりに礼拝堂で開催されました。天候が心配される中、幼稚園までの道のりが大変だったと笑いを誘うお話から始まり、先生の優しい語り口調や、スクリーンからうつしだされる素敵な絵に会場が終始、温かい雰囲気に包まれていました。

(参加者 67名)



講演内容

数多くある作品のなかから、一部をご紹介いただきました。先生の絵の特徴は空、青と緑の線。これは自分の身体がこのようにできていると感じているから…。北欧の美しくも厳しい世界を描き、愛と平和・幸せ・家族・喜びを一枚の絵に表現しています。「絵を書き始めて45年、初恋のような気持を絵に描いている。また、後世に生きる若者たちに多くの作品を残したい。」とおっしゃる先生。絵のことをお話す時は、とても輝いていらっしゃいました。北鎌倉にある葉祥明美術館は、絵本にある1ページから切り抜いたような自然豊かな洋館で、ぜひ訪れて先生の数々の魅力溢れる作品に触れてみたいくなります。講演会の最後には照明を落としBGMに合わせて先生が詩の朗読をしてくださり、静かな心休まる時間を過ごさせていただきました。

<子育てにおいて大事なポイント>

読み聞かせが大切

母親の膝の上で絵本を読んであげることが大事。身体で温かさ、柔らかさを感じ安心を学ぶ。このような経験があることで危険なことを察知できるように育っていく。

どう生きるか

歳を重ねても、どう生きるか模索している。こう生きたら良いという正解はない。その人がその人らしくどう生きるか。親がしっかり自分の生き方をしていれば子は親の姿を見て育つ。知性・感性・礼節を磨くセルフエデュケーション(自分の教育)をしていくことが大切。

「〇〇ない」

「怒らない」「比べない」「急がない」「気にしない」「無理しない」「いのちあきらめない」「こだわらない」

すべて先生の作品の題名です。親がいきいきと人生をおくるためのヒントが書かれています。

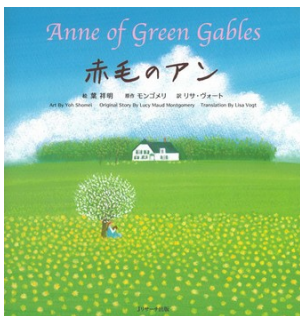
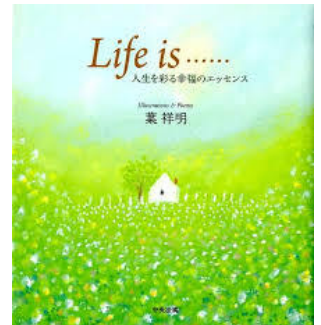
オレンジいろのペンギン



神さまは、どうしてぼくをオレンジ色にしたんだろう？
ジェームズは、ほかの子たちと違って見えるように見えます。でも、それが「ジェームズ」なのです。自分の個性をよく知って、受け入れ、大切にと伝えその子の個性・存在がこの世の中で役に立つということを伝える絵本。

Life is

人のあらゆる営みが意義深い。人が愛を持って行えば日常のあらゆるものが神聖なものとなる。愛とは微笑みです。



赤毛のアン

You Shoumei World ...

葉 祥明先生の世界そのものの絵本。

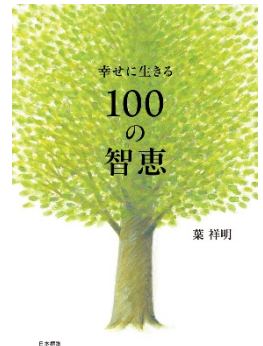
幸せに生きる100の智恵

朝は、神様からの

今日という名の「いのち」の贈物。

感謝をして生きる、幸せに生きる...

100の智恵・・・メッセージが詰まった1冊です



Poem Card

母親というものは

母親というものは

無欲なものです

我が子がどんなに偉くなるよりも

どんなにお金持ちになるよりも

毎日元気でいてくれることを

心の底から願います

どんな高価な贈り物より

我が子の優しいひと言葉で

十分過ぎる程幸せになれる

母親というものは

実に本当に無欲なものです

だから

母親を泣かすのは

この世で一番いけないことなのです

葉 祥明



参加された方より

さくら赤 山口 晶子

先生の絵やお話の様子からあたたかい人柄が伝わってきました。
いそがない、気にしない、無理しない。
先生がおっしゃっていた言葉が、こころにしみました。こどもがいつか母と過ごした時間を思い出した時、私は笑っているだろうか・・・？
子育ての一つひとつをこどもと楽しんで過ごせたらと思いました。
大切な気づきの機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

あやめ赤 植竹 愛

葉祥明先生の講演会にはじめて参加させていただきました。親しみやすくチャーミングなお人柄で笑いも交えてとても楽しい時間を過ごさせていただきました。
「子どもたちは、幼い頃にお母さんのヒザの上で絵本を読んでもらい、体で安心を学ぶ」というお話を聞き、読み聞かせの大切さを痛感いたしました。また、これからも子どもたちが安心できる空間を作ることができる母親でありたいと思いました。子どもたちが大きくなるにつれ、うるさく注意ばかりしてしまいます。安心とはだいぶ離れてしまったように感じますが、子どもたちがその子どもらしく過ごしていけるように。自分がそのお手本となれるように。生きるために生まれてきたことを子どもたちに知ってもらえるように。朝目覚めたときに感謝できるように。たくさんの「ように」が心にうかぶ一時でした。ありがとうございました。

ふじ・ひまわり 小島淳子

話題豊富な先生のお話は時代も世代も空間も超えてどんどん広がっていくようで、それでいて、心の奥にどんどん染み込んでいくようで、楽しくて、ずっと聴いていたかったです。
物販コーナーでは、大好きな物語「赤毛のアン」の絵本を発見！かつて訪れたプリンスエドワード島の美しい風景と、心に刻んだ物語のフレーズが凝縮されていて、「ああ、この絵本を開けば、いつでも赤毛のアンの世界に行ける」と幸せな気持ちになりました。
またお話を伺う機会があれば是非参加したいです。
ありがとうございました。

ひまわり 久田富士子

今から5年前、息子が年少のころに葉先生のお話を、今日のように笑いあり涙ありの中で聞いた事を思い出しました。その頃は、私も母親4年目で気持ちに余裕のない日々を過ごしていましたが、葉先生のお話を聞いて肩の力がふっと抜けて、温かい気持ちになれた事を覚えています。あれから5年経ち、私も母親8年目、今日は先生の言葉一つ一つに共感をおぼえながら、楽しく聞く事ができました。子育ては、子どもを育てるのではなく、親である自分が育たなければならないと。また、一日が無事に終わることも、明日が来ることも決して当たり前ではなく、ありがたいと思う事なんだと改めて考えることができました。今日は、本当に心が元気になるお話をたくさん聞くことが出来、また明日から頑張れる気がします。ありがとうございました。

さくら赤 横山 礼

ちょうど2カ月前に北鎌倉にある葉先生の美術館にお伺いしてから先生の描くやわらかく優しい絵と詩に胸をうたれておりました。そして本日の講演会。野毛山の坂を上られてしばし休息されてから入場された先生は「休息って大事だねー。」とお話しされていてとても優しく人の心をほぐしてくださいる方だと思いました。
絵本の世界を通して人々の人生を表現していく…。先生の作品はそれぞれの時代やその時の気持ちを絵やメッセージによって美しく形にしてあることに感動いたしました。

葉先生の著書「母親というものは」から

母さんには
しられたくないことがある
母さんを
悲しませたくないから…

この詩を読み昔の自分を思い出し胸がはりさけそうにもなり、勇気づけられ、そして母になった今、息子たちも同じことを思うことがあるかもしれない。だからこそいつも元気でいられますように！と祈るばかりです。このような機会をいただき感謝いたします。

あやめ白 涌井のぞみ

保育講演会で豊かな時間を過ごすことができ、ありがたく思っております。
今回初めて葉先生のお話を聞く機会に恵まれたのですが、ユーモア溢れるお話で、笑ったり、涙を流したり、短い時間ではありましたが何度も感情が揺さぶられ、心の奥深くに先生のお話が染み入りました。さて、葉先生の絵本の中で、私は「星の王子さま」を購入させて頂きました。世界中で愛されている作品ですが、内容の解釈が難しく、取っつきにくい印象を私自身が持っていた作品です。簡略化されたストーリーは何度か子どもに読んであげたことはありましたが、先生の描かれる美しい絵と共にもう一度子どもたちに読み聞かせてあげたいと思いました。
さっそくその晩、寝る前に子どもたちと絵本タイムを楽しみました。
「最後、王子さまどうなったの？死んだの？」「魂だけ星に帰ったんじゃない？」
「じゃ、王子さまのからだはどこに行ったの？」「んー…」
どこに行ったんだろうね。。。」（どう答えますか??）
そしてさらに本を閉じた後、背表紙に有名なセリフ「かんじんなことは、目に見えないんだ」とあります。子どもたちに問いかけてみると…、「命！心！」という回答が…。
一冊の絵本によって、豊かな時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

さくら赤 池淵恵美子

先生の言葉がとても心に刺さります。そして絵が心を癒してくれる。美術館に行った時も子供のための本より自身のために手に取る本が多く、結局講演会でも同じでした。自分自身が変わりたい、そんな中で先生の本に出会い、そしてチャーミングな先生ご本人の生の声を聴く機会ををいただけました。子供や周りを変えるのではなく自分が変わり、幸せだと思ってもらえる背中を作って行きたいです。微笑みを絶やさずに。このような素晴らしい機会をいただきまして、ありがとうございました。

チューリップ 福馬 麻子

『かんじんなことは目に見えないんだ』
星の王子さまの有名な言葉ですが、葉祥明先生が口にされた今回、初めて聞いた言葉のようにストンと胸に落ちてきました。
暖かやかなお声のせいでしょうか。またはユーモアのまじったお話のせいでしょうか。
目に見えていない部分はどんなだろう。家に帰って後、ゲームをしている息子を見ながら思いました。特に何か関係が変わるわけでは無いけれど、何か不思議な想いが湧いてきます。いつも笑っていてくれるといいな、と感じます。
講演会の間は愛が溢れる時間でした。愛とはほほえみ。心が愛情で満たされたから、目に見えないものを見よう、感じようという気持ちが生まれたのかもしれませんが。私も葉祥明先生のように、ほほえみから温かみを感じさせる人になりたいなあと思いました。
今回は素晴らしい講演会に参加させていただきありがとうございました。

あやめ赤 辻 弘美

子供の頃に初めてお小遣いで買ったぬいぐるみ、それがジェイクでした。何年もの時を経て、今回その作者、葉先生とお逢いするなんて夢にも思っていませんでした。巡り合わせに感謝いたします。先生のパステルカラーの色彩画に癒され、温かく奥深いお言葉に私自身が向き合える貴重な時間となりました。
母親として、読み聞かせを続けたり、息子の個性をそのまま受け止め、この子らしく生きていけるようなサポートをしていこうと改めて思いました。
また、私自身、日々の当たり前のことに感謝し、人様のために何かお役に立てる事を喜びと感じながら、前向きな気持ちで過ごしてまいりたいと思います。
心豊かなひと時を頂き有難うございました。

あやめ赤 西山 友紀

葉 祥明先生の楽しいお話し、そして作品に触れる機会を頂けたことに感謝いたします。
先生の作品は穏やかな気持ちにしてくれます。
日々生活していく中でつつい家族にきつくなってしまう自分があります。いつもその後反省の繰り返しです。
「いてくれるだけで幸せ」
当たり前のことを当たり前だと思わないように、優しく豊かな心を持った母親、女性になりたいと思います。そして、先生の素敵なお作品にもっと触れ、子供にも伝えていきたいです。
今度は北鎌倉の美術館に足を運びたいと思います。

さくら赤 鈴木 春花

先生が質疑応答の時間に「テレビを消す」ということをおっしゃっていたので、早速実践して見ました。普段は子供がテレビを見ている間に家事を済ませていたんですが、意図的にテレビを消すことにより、私も子供と一緒に遊んだり、絵本を読んだり充実した時間になりました。講演会前より子供との会話も増えたように感じます。たくさん素敵な絵本を知ることができましたし、朗読の時間は自分の母のことを思い浮かべたりと特別な時間をいただき、ありがとうございました。

さくら白 黒澤 徳子

講演会前に北鎌倉の美術館を訪れ、当日を心待ちにしていました。先生の絵は優しくゆったりとした時間が流れていて、柔らかな色彩にとっても癒されました。お話を聞き「朝目覚めたら幸せ！」のことが印象に残っています。日々慌ただしく過ごしているうちに、小さな喜びを見過ごしていたように感じました。ひとつひとつの喜びに幸せを感じ、感謝していたらと思います。素晴らしい講演会の機会をありがとうございました。

さくら白 下向 清

濁りのない色で描かれた遠い地平線によって、まるでその清明な世界が画面の境界を越えてぐりりと自分を取り囲んでいるかのように感じさせる……葉祥明先生の作品の世界そのもののような朗らかなお人柄に、今回触れることができた。

女性でもなければお子さんもいらっしゃらないという葉祥明先生が、なぜこんなにも母親たちの共感と涙を呼ぶ言葉を紡げるのか、不思議でたまらなかった。しかし母ではないからこそ母と子に平等な視線で語りかけられるのかもしれない。戦場に立たなくても平和を望むように、神を見たことがなくても信じられるように、母の視点を持つことは葉祥明先生にとってはごく自然なことなのかもしれない。普遍とはそういうものだろう。

最近、自我が確立してきた5歳の息子と過ごしていると、我が子を自分と切り離して考えることの難しさに気付く。子どもは子どもの、唯一の人生を歩んでいることをつい忘れてしまう。社会のルールを教えているつもりで、自分のルールを押し付けていたり、才能を伸ばしているつもりで、興味の芽を摘んでいた。家で、幼稚園で、公園で、習い事で、そんな瞬間が幾つも積み重なる。

母親だから、子どもにはより良い道を歩んでほしいから、思ってもいけない方向へ走り出す我が子を見ていられずに、つい口が開いてしまう。叱る言葉は止まらず、言えば言うほど息子の耳を素通りし、言葉の中身がどんどん空疎になっていく。私がより良い道、と信じている道は、私の価値観の中だけのちっぽけなものなのに。そう、まるで葉祥明先生の地平線にいる一匹の動物のように。そして世界は果てしなく広いのに。

「君はありのままがいい」と息子に言うこと。それはもしかしたら、私が母親である限り難しいのではないか。だから言いたいけれど言えない言葉たちに共感し涙するのではないか。

この忌まわしい「母親」から解き放たれた後に、やはり我が子の母としてある自分と向き合えた時、あの清明な世界の住人になれるのかもしれない。

初めて葉祥明先生の本に出会ったのは20代の頃だったでしょうか。

その時に読んだのは「地雷ではなく花をください」と「ひかりの世界」でした。どちらも今でも忘れない位、印象の強い絵本でした。地雷ではなく…の方を読んだ後には戦争について深く考え、地雷や戦争をなくすために自分にもできる事を考えました。

ひかりの世界…は病気で亡くなった子供からの両親へのメッセージの絵本でした。北鎌倉の美術館は今亡き母と一緒に訪れた思い出の場所です。母が亡くなった後、立て続けに家族を亡くした時には、残された人をなぐさめるための本を読んでも、何も感じませんし支えにもなりませんでしたが、何年も経った今は悲しみも少し癒され、葉祥明先生に引き合わせてくれたのは母であり、亡き後でも支えになってくれる存在なのだと感じます。一日でも早く地雷をなくしたい想いで、本の完成を急いだという先生のような人になりたいと思い、もっと若い頃に先生のお話を聞いておけば良かったと少し後悔しています。

最後に静かな音楽とともに先生の詩の朗読を聞かせていただき、心が洗われるような穏やかな時間を過ごす事ができました。いつか先生の絵の世界のようなグリーンゲブルスに行ってみたいです。

(匿名)

あやめ白 綾部由紀子

優しく穏やかな雰囲気の中笑いもあり、心温まる素敵な講演会でした。

祥明先生のお話を聞いて、自分の母親への感謝の気持ちと同時に、私が母親から受けた愛情を、今度は私が息子にかけてあげる番なのだなと、改めて色々な事を考える良い機会となりました。

日々の何気ない事にも感謝の気持ちを忘れずに、毎日を過ごせたらと思います。

素敵なお話と詩の朗読をありがとうございました。

あやめ白 森本やよい

少し熊本弁が入った先生の優しい声は心地良く、詩の朗読では素敵なBGMの中で癒しの時間を過ごすことができました。
先生の本と初めて出会ったのは入院中の病室。妊娠4ヶ月で手術をしなければいけない時、「I can hear you, Mommy ママきこえるよ」というモーツァルトのCDがセットになった胎教ブックのプレゼント。不安でいっぱいだった私は先生の本に励まされ、おなかの赤ちゃんとの絆が生まれました。先生の絵は見るだけで心穏やかになり、温かい詩は心が洗われます。息子たちと絵本を一緒に読める喜びを感じながら、ゆったりとした気持ちで膝の上で読んであげたいです。素晴らしい講演会ありがとうございました。

あやめ白 林 晶子

葉祥明先生の雰囲気や話し方、優しい絵や素敵な言葉が重なり、とても幸せなひとときでした。何事にも感謝すること、確かにその心を忘れなければ怒りなど負の感情が和らげると思いました。感謝する心を常にもちつけていこうと思いました。「愛とはなにか」人生における大テーマですが、「愛とは微笑みです」の先生の言葉に難しいことを考えず、微笑むことができればあたたかい気持ちになれる、簡単なことなんだ
気づかされました。母親の詩を聴きながら、ふと私なりに母とはと考えました。母とは当たり前で、あまり尊いものになってしまうと違う人になってしまいそうで、あたり前があるから私は生きていけるんだと思えました。だから私も子供の良き母でなくても、当たり前でいいんだとそんな事を考え、想いにふけれるいい時間になりました。ありがとうございました。

さくら白 菅野 美嘉

園の母の日の集いで、亜樹子先生が葉祥明先生の「母親というものは」という詩を紹介して下さいました。目頭が熱くなったのを今でも覚えています。
子どもが誕生した時には、健康で幸せに生きていければそれだけでいいと思っていました。しかし、子どもたちが成長していく中で色々な期待をしながら子育てをしていました。講演会で葉祥明先生のお話を伺い、また優しさに溢れる絵本に触れることができ、日々の子育てを見つめ直すことができました。子どもたちに微笑みかけたり、大切に思っていることを言葉で伝えたり、そして時には思いきり抱きしめたいと思えました。
子どもたちの存在そのものに、心から感謝をして子育てをしていきたいと思えます。

つくし 岩瀬菜穂美

優しい絵の雰囲気で勝手に華奢な女性の方だと思っていたら、明るなおじ様でびっくりでした。たくさん詩を読んで頂く中で、幸せや平和はそこかしこにあるんだな。一つ一つすくい上げれば毎日新鮮に幸せを感じられるんだと気づかせて下さいました。言葉が礼拝堂の天井から優しく降り注いでくるような、そんな素敵な時間でした。
「眠りながら、あるいは眠るように、その身体から去っていく。次の人生の準備の為に。」命には限りがあるけれど、魂は永遠に生き続ける。その言葉が胸に突き刺さり、涙が止まりませんでした。先日父を亡くした私に、にっこり笑って「いつでも会えるよ」と仰って下さいました。葉先生の言葉と絵に気持ちが軽くなりました。

ひまわり 佐藤 多恵子

今回、葉祥明先生のお話を聞けるという貴重な体験をさせて頂きまして、本当にありがとうございました。前回、葉祥明先生の講演会があった時、子どもたちは年少でした。その時は残念ながら参加することができませんでした。後日、北鎌倉の美術館へ行かせて頂き、明るく美しい絵と心を打つ詩や言葉に感動いたしました。
今回初めて先生とお会いして楽しいお話を聞け、その中でとても気さくでチャームな先生のお人柄も垣間見え、ますますファンになってしまいました。
先生がおっしゃっていた「急がない、怒らない、無理しない」という事が大切だというお話がとても心に残りました。
普段、私は子どもたちに対して、全く逆の対応をしてしまっていると気付かされました。いつの間にか子どもたちも9才になりました。友だちと遊ぶ時間が増え、家族で過ごす時間も以前より少し減ってきました。これからますます私の手から離れていくでしょう。先生がおっしゃっていた「急がない、怒らない、無理しない」という事を常に心にとめ、子どもたちとのかけがえのない時間を楽しく大切に過ごしていきたいと思えます。

たんぼぼ赤 永井真美

講演会のお話の中で今の私の心に一番残った言葉は、「母の背中を見せる」でした。このところ少し娘に構いすぎてしまっているというか口うるさく、細かく注意などしてしまっている、寛大になれない自分が気になっていたことと、母である私が楽しんでやっていることは娘もちゃんと見ているようで、娘もいつの間にかできるようになっていたり、上達が早かったり、自分から取り組んでいたりして、なんとなく私が何ごとにも（人に対して）食わず嫌いをせず、前向きに取り組まなくてはなと気付き始めていたので、先生の「母の背中を見せる」という言葉や、先生のお母様の「自由奔放主義」という育児は、今の私を後押ししてくださるような、必要な言葉だったように思いました。

自分のこども時代を思い出してみても、母が好きなのは自分も自然と好きになり、母が嫌いだとか苦手だと言っていたことに対しては素直に鵜呑みにしてしまい、取り組む前から難しく考えたり消極的だったりしていました。それだけ子どもにとって母という存在は、母になった今想像しているよりもずっと大きかったんだと気付かされました。

まだまだまだまだ母としては未熟で、つい自分本位でイライラしたり怒りすぎたりしてしまって反省の毎日ではありますが、娘の世界を広げて人生の幸福度を高めるためにも、私自身が小さなことでも色々な事を試してみたりして、背中を見せてあげたいと思いました。

つつい育児というイメージとして対面式や横並び式をイメージしてしまいますし、それが何となく安心ですが勇氣を持って師匠式も頑張ってみます。

葉先生の妊娠から思春期まで時期ごとに出されている本がとても気になったので読んでみたいと思いました。そこに私の実体験など追加して娘がもう少し大きくなったら贈ってあげたいです。

幼児期という早い段階で、葉先生のお話を伺うことができラッキーだったと

思います。先生は時間軸でも空間軸でもとても長く広く意識を持たれていて、私も目の前のことばかりにとらわれてはいけな、大きな心で物ごとを見なければと思いました。

毎朝の、「今日も生きていてありがとう」を習慣にしたいと思います。

素敵な出会いをありがとうございました。

たんぼぼ赤 稲葉 恵

北鎌倉にある葉祥明先生の美術館には、6年ほど前に母と訪れたことがあります。水彩のグラデーションが美しく、どこか懐かしい様な先生の絵に囲まれた空間は素晴らしいものでした。でも今回講演会に参加して思い出したのは、先生の詩のひとつひとつを食い入る様に眺めていた母の姿でした。自分自身が母となった今、改めて先生の詩に触れ、あの時の母の気持ちがわかるような気がしました。

講演を通して強く心に残ったのは、母親というものは子どもが元気でそこに居てくれるだけで何よりも幸福になれるというお言葉です。子どもが子どもでいられる時間は短く、子どもにそのことを伝えるチャンスは案外少ないのだということにも気づかせて頂きました。

子どもを叱り過ぎてしまう時にどうすれば良いかという質問に、先生は冗談のように葉祥明の絵本や詩を手元に置くと良いと仰っていました。目の前の家事やお世話に追われて子どもの話を聞き流してしまう事も多いのですが、先生の詩を心に留めて、時に手を休め子どもに心を向けて、あなたを大切に思っているのだということを引きちんと伝えていけたらと思います。

素晴らしい講演会を開催頂きありがとうございました。

葉先生の絵のように優しく心癒されるお話をお聞きし、優しい気持ちになれた1時間半でした。いてくれるだけでありがたい、を忘れずにあまり怒らず焦らず子育てを楽しみたいです。(匿名)



北鎌倉 葉祥明美術館